



令和3年1月21日に南が丘地区で開催されている、
「井戸畑サロン」のお話を聞いてきました。

住宅地の中にある井戸畑サロンは、畑と青谷第一集会所の2か所を会場にしてH24～開催している。

畑は、荒れ地となってしまうところを借りて、個人で借りる区画とみんなで共有する区画に分けて畑作業を行っている。

月1回、畑に集まる中で「キュウリが出来たよ～😊」「いいキュウリができたね～❤️」というような会話が楽しい。

夏休みにラジオ体操を終えた子どもたちと畑でスイカ割りをしたこともある。漬物づくりの名人に採れた野菜の漬け方を教えてもらったりもする。災害時のための炊き出し訓練も、畑の野菜を使って取り組んだ。

月1回、集会所で開催するサロン「井戸畑会議」では、ゲームやおしゃべりをしている。

サロンのシンボルの井戸。災害時協力井戸にもなっている↓

生活支援
コーデイネーター通信
※生活支援コーデイネーターは地域のみなさんとともに地域での支え合いの仕組みづくりに取り組んでいます。
令和3年 1月21日
Vol.17




↑井戸畑サロンの畑



煮炊きが出来るようにドラム缶を改造した蓋 →



↑廃材を利用して建てた東屋



↑入り口にはレンガで「サロン」の文字



↑井戸畑サロンのスタッフのみなさん

いどばた 南が丘地区 井戸畑サロン

サロンはどのような場になっていますか？
サロンは、以前から住んでいる住民と新しく出来た団地に引っ越してきた住民とを「**つなぐ存在**」となっている。サロンが普段会えない人に会える「**出合いの場**」となっている。
「サロンでは、かたくならず、やわらかく、みんなと“とけあって”話をしている」

サロンをされていてよかったことは？
みなさんに喜んでもらえること。90歳の参加者もサロンを楽しみに待っている。でもよく考えたら自分の健康のためにもなっている。

サロンを続ける秘訣は？
協力してくれる人がいるから続けられる！

コロナ禍での活動は？
集会所では集まりにくいので、屋外の畑サロンを中心に行っている。